

様式第5号

出張調査報告書

平成27年2月27日

松伏町議会議長 山崎善弘様

会派名 自民の会

代表者名 高橋昭男



下記のとおり、先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成27年2月16日から平成27年2月16日まで
2 視 察 地	(1) 新潟県燕市 2月16日
3 視 察 目 的	(1) 「若者会議」「イキイキまちづくり支援事業」の概要、 取り組み状況、成果、課題等について
4 視 察 者 氏 名	高橋昭男、佐藤永子、渡辺忠夫、山崎善弘、松岡高志
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

◎新潟県燕市（平成 27 年 2 月 16 日）

《市及び新市庁舎の概要》

人口は 82,241 人、世帯数は 28,480 世帯、面積は 110.94km<sup>2</sup>、市の木は桜、市の花はキク、サルビア、バーベナ・テネラである。人口は柏崎市に次いで新潟県下 7 位であるが、市域の大部分が平地であるため、人口密度は新潟市に次いで 2 番目になっている。洋食器の生産では世界的なシェアを誇る工業都市であり、特に三条市とともに金属加工を中心に栄えたこともあって古くから相互補完の関係が深く、燕は「職人の町」、三条は「商人の町」とも称されている。

2006 年（平成 18 年）3 月 20 日、燕市と西蒲原郡吉田町、同郡分水町の 3 市町の新設合併により、現在の燕市として発足し、昨年完成した新庁舎は大地震でも継続的に利用可能な免震構造であり、屋上にはヘリポートなどの水害時の防災拠点機能も確保している。また、太陽光発電パネル、風力発電一体型外灯設備や自然通風、自然採光により自然エネルギーを積極的に活用している。新庁舎の外立面は全面ガラス張りのモダンかつスリムな作りであり、内部の執務室エリア、来庁者スペースはオープンでワンルームの空間を確保している。議場も側壁の一部が透明ガラスであり、議場両側の通路や休息スペースから中が見える、オープンな構造になっている。

《視察結果・所感》

松伏町でも人口減少がはじまり、特に若い世代の人口流出が顕著に表れはじめている。全国的に少子高齢化時代を迎え、各地方自治体では若者の人口流出をどのように食い止めるか、或いは若い世帯の数をどのように増やすかが最重要課題になっており、その解決のためには地域住民や若者が自ら発案、行動する「若者によるまちづくり」や「地域コミュニティづくり」といった市民活動が求められている。

燕市は「日本創生会議」の消滅可能性都市ではないが、20～39 歳女性人口が -46.6%になるといわれ、3つの人口増戦略「定住人口の増加」「活動人口の増加」「交流・応援人口の増加」事業が行われている。その事業の中でも「つばめ若者会議」による若者世代の活動事業と市民活動の活性化を図る「イキイキまちづくり支援事業」の取り組みを視察、研修してきた。松伏町は首都圏に位置しているとはいえ、燕市同様 20～39 歳女性人口が 2040 年には 40%も減少するといわれている。今回の先進地区燕市の人口増事業の取り組みは、松伏町の求められる「地方創生」のまちづくりと PDCA メカニズムの具体的な方向性を示していると感じさせられた。

### 「つばめ若者会議」

「つばめ若者会議」が参考にしたのは島根県隠岐の島の海士町であった。テレビでも紹介された「Iターンにより多くの若者が移住する町」である。また、若者会議の事業サポートはこの海士町のコミュニティ事業のデザインをした「スタジオL」であり、その代表の大学教授でもある山崎亮氏であった。

2012年8月の事業プラン策定から2年、「つばめ若者会議」の当初目的を達成した今、来年度2015年4月以降は地域のメンバーが主体となって活動をしていくとのことだった。

この若者会議の立ち上げ時、市の若手及び新人職員有志15名がプラン作りに参加しており、事業成功への全庁的な意気込みが大きく感じられるとともに、今後は青年会議所や商工会、農協の若手メンバーも参加していくことから事業の発展性と若者会議によって燕市の地域のコミュニティ活性化が着実に推進されていくことが感じられた。

立ち上げ時は事業実績のある「スタジオL」の力が必要であったが、それによって若者によるまちを元気にする仕組みが創られていき、同時に若者が育ち人口減の課題解決につながっていく、この事業の意義は非常に大きいと思われる。松伏町においてもこの燕市の先例に習い、事業立ち上げ経緯などこと細かく検証していき、早急に若者による自立的事業の場を作る必要があると感じた。

### 「イキイキまちづくり支援事業」

「イキイキまちづくり事業」は平成18年の「NPO活動等助成事業」から始まっている。名称の変更は平成23年、「NPOしか対象にならない。」「〔活動助成〕なら団体の運営費を出してもらえる。」などの誤解を解くことと、制度の整備によるものであった。助成金は付属機関である「イキイキまちづくり事業審査会」の年2回の公開プレゼンで行われている。NPO団体をはじめ、まちづくり協議会、ボランティア団体などが受け、助成金を受けた全団体はその活動報告を公開の場で、事業報告会を行うことになっている。また、助成金を受ける団体数は利用回数制限があるため減少傾向になっているという課題もあった。燕市では年間300万円の助成金を交付している。審査も厳正であり公開されている。この、地域を活性化する地域の団体を健全に育成している燕市の制度から学べるものは多い。今後「松伏版総合戦略」「松伏人口ビジョン」の策定において、松伏町の創生は若者によるまちづくり活動と町を元気にする団体の育成とその支援であると考えさせられた。

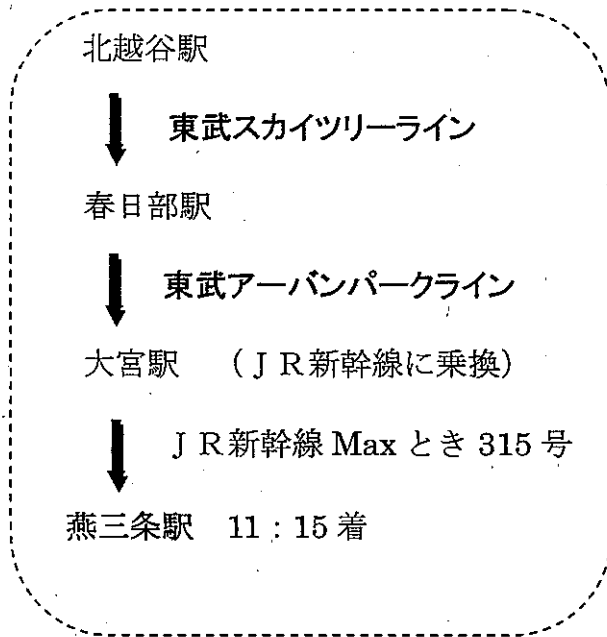
### 「燕市その他の先進的事業」

燕市のまちづくり事業の中から、「つばめ若者会議」と協働のまちづくりの「イキイキまちづくり支援事業」が研修目的であったが、燕市はそのほかにも数多くの先進的な取り組みをおこなっている。特に広報関係においては、「子ども広報」や斬新な議会広報、まちづくり事業のwebでの紹介など、市の情報が見やすく、そして、とてもわかりやすくホームページで発信されている。市の広報担当の熱意がウェブサイトのすべてのページから伝わってくるような情報先進のまちでもある。また、燕市では「教育立市宣言」「まちづくり住民会議」「情報システム最適化」「空き家バンク」「ふるさと納税」などにおいても、他のまちにはない先進的な取り組みがあり、「ふるさと納税」の寄附金は1億円になるとのことであった。燕市の新市庁舎での研修は今後の松伏町の目指すべき「まち」を示唆しているような意義深いものであった。

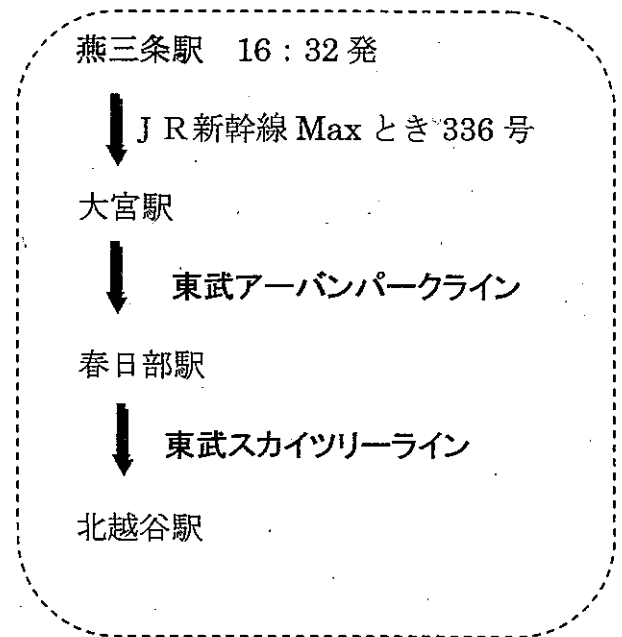
# 平成26年度自民の会行政視察行程

○2015年2月16日(月)

行き



帰り



燕三条地場産業振興センターの展示即売場見学 (含む昼食時間)

11:30~13:10

市役所に(移動時間15分)

視察研修 13:30~15:30 (燕市役所)